

平成22年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	有田町立西有田中学校		
2 所在地	有田町立部甲74番地		
3 校長名	巨瀬徳彦		
4 学級数 児童生徒数	11学級 317人	5 実施学年 児童生徒数	全学年 317人

6 取組のねらい

UDは、年齢・性別・能力・障害のあるなし・国籍などによる違いを認めあう考え方である。これまでも、本校は独自に「福祉ボランティア体験学習」や「人権・同和教育」を推進してきた。これらの取組にUDの考え方を取り入れることにより、本校の生徒の相手を尊重する意識や思いやりの心がさらに育まれると考え、積極的にUD教育を取り入れた。

7 取組の実際（写真等を入れ具体的な様子がわかるようにすること）

(1) 支援・指導計画の作成と職員研修

UD教育推進担当を決定し、支援・指導計画を策定し、職員会議等で検討した。平行して、資料等の配付や担当者の説明等で職員のUD教育への理解と関心を高めた。

(2) 授業等での取組

ア 3年生社会科（公民分野）で共生社会について学習した。その際に、UDについてふれ、その考え方や大切さについて学ばせた。

イ 技術・家庭科の作品制作の中で、UDを意識した作品作りを推奨した。

ウ 本校美術部の活動の中で「佐賀県こどもUD作品コンクール」への応募作品を作成し、応募した。



図1 作成の様子



図2 生徒作品

(3) 地域行事を利用した取組

有田町で開催される、車いすマラソン大会の運営に全校生徒がボランティアとして参加し、障がいをもっている方とのふれ合いを通し、当事者の声を聞き、UDについて考えさせた。



図3 大会当日の様子

8 取組の成果と課題

今回の取組を通して、生徒のUDへの関心が大いに高まった。他人を思いやる心や優しさ、相手の立場になって考える温かな心を培うことができた。今後も指導を継続させたい。一方で生徒を指導する職員の研修機会の不足が否めない。知識としてはUDを理解することができた。今後はUDをどう教育現場で生かしていくかについて検証していくことが課題である。外部関係機関との連携をうまくとっていきたい。